

並川孝儀教授 略歴および業績

【略歴】

学歴

昭和四八年 三月 佛教大学文学部卒業
昭和五十年 三月 佛教大学大学院修士課程仏教学専攻修了
昭和五三年 三月 佛教大学大学院博士課程満期退学
平成 八年 三月 博士（文学）「正量部の研究」

学内役職

昭和五七年 四月 文学部専任講師（～昭和六三年四月）
昭和六三年 四月 文学部助教授（～平成七年三月）
平成 七年 四月 文学部教授（～平成二二年三月）
平成 七年 四月 国際交流研修室長（～平成九年三月）
平成十一年 四月 学生部長（～平成十三年三月）
平成十二年 四月 学生相談室長（～平成十三年三月）
平成十三年 四月 文学部長・文学研究科長（～平成十七年三月）

平成二二年 四月 仏教学部教授（～平成三十年三月）

平成二七年 四月 副学長（～平成二九年三月）

平成三十年 三月 佛教大学名誉教授

その他職歴

昭和五五年 四月 ジャワハルル・ネルー大学客員研究員（～昭和五六年三月）

平成 六年 八月 ジャワハルル・ネルー大学大学院客員教授（～平成六年十月）

平成十五年 九月 北海道大学大学院非常勤講師（集中講義）

学会関連

所属学会

日本印度学佛教学会

日本佛教学会

日本仏教教育学会

仏教史学会

パース学仏教文化学会

北海道印度哲学仏教学会

国際仏教学会

佛教大学仏教学会

平成 二年 五月 パーリ学仏教文化学会 理事（～平成二九年五月）
平成十三年 六月 日本印度学佛教学会 評議員（～平成三十年三月）
平成十六年 四月 国際仏教徒協会『佛教研究』編集委員（～平成二四年三月）
平成十七年 四月 日本印度学佛教学会 理事（～平成三十年三月）

【業績】

単著

ゴータマ・ブツダ考	大蔵出版	平成十七年十二月
スッタニパータ 仏教最古の世界	岩波書店	平成二十年十二月
構築された仏教思想 ゴータマ・ブツダ―縁起という「苦の生滅システム」の源泉	佼成出版社	平成二二年十月
インド仏教教団 正量部の研究	大蔵出版	平成二三年十一月
ブツダたちの仏教	筑摩書房	平成二九年十二月

共著

原始仏教の世界 仏教の形成と展開（新アジア仏教史02 インドⅡ）第2章	佼成出版社	平成二二年十二月
-------------------------------------	-------	----------

論文

有部における無記根について

アビダルマにおける「力」という語について

説一切有部のダルマ体系についての一考察

新資料 DHARMAPADA の基礎研究 I

新資料ダルマパダについて

ギルギット写本断簡 Saddharmapuṇḍarīka-sūtra 研究報告

Cakravatīsūtra について

Mahākarmavibhaṅga 所引の経・律について

鸚鵡経類の展開—特に Mahākarmavibhaṅga を中心として—

Mahākarmavibhaṅga の所属部派について

「アビダルマ経」考—abhidharma cakravatīsūtre の用例を中心として—

新資料ダルマパダの伝承—パーラ王朝期の碑文との関連より見て—

正量部の随眠説—Saṃskṛtasaṃskṛta-viniścaya 第17章—

初期仏教経典における buddhānubuddha の意味

正量部の非随眠説—Saṃskṛtasaṃskṛta-viniścaya 第十六章—

印度学佛教学研究 二三—二 昭和五十年三月

印度学佛教学研究 二六—一 昭和五十二年十二月

佛教大学大学院研究紀要 六 昭和五三年三月

人文学論集 十五 昭和五六年十一月

仏教史学研究 二四—二 昭和五七年四月

人文学論集 十六 昭和五七年十二月

印度学佛教学研究 三二—二 昭和五九年三月

佛教大学研究紀要 六八 昭和五九年三月

佛教研究 十四 昭和五九年十二月

印度学佛教学研究 三三—二 昭和六十年三月

佛教大学大学院研究紀要 十三 昭和六十年三月

印度学佛教学研究 三五—二 昭和六二年三月

佛教大学研究紀要 七一 昭和六二年三月

日本佛教学会年報 五三 昭和六三年三月

佛教大学研究紀要 七四 平成二年三月

初期仏典に見られるブツダの意味

『クシャーナーインド古典文化形成過程の研究』五一 平成三年一月

正量部の福德説—Sanskritasanskṛita-viniścaya 第十九章— 佛教大学研究紀要 七五 平成三年三月

原始仏教におけるブツダと仏弟子—両者に関する表現の異同と呼称より見て—

『前田恵学博士頌寿記念 佛教文化学論集』、山喜房佛書林 平成三年四月

正量部の非福説 印度学佛教学研究 四十一—二 平成四年三月

Buddha's Disciples who Were Called 'Buddha'

『Hundred Years of The Bauddha Dharmankur Sabha』 The Bengal Buddhist Association 平成四年十二月

正量部の不動業説 佛教大学文学部論集 七七 平成四年十二月

The Transmission of the New Material Dharmapada and The Sect to which it Belonged

佛教研究 二二 平成五年三月

初期仏典に見られるブツダの救済性—√tr の causative の用例より見て—

前田恵学編 『渡辺文麿博士追悼記念論文集 原始仏教と大乘仏教』上、永田文昌堂 平成五年五月

正量部の煩惱説—『有為無為決択』第21章「聖諦決択」より見て—

印度学佛教学研究 四二—二 平成六年三月

正量部の聖諦説〔I〕—Sanskritasanskṛita-viniścaya 第21章— 文学部論集 七八 平成六年三月

正量部の修行階梯—『有為無為義択』第21章「聖諦決択」より見て—

印度学佛教学研究 四三—一 平成六年十二月

正量部の四善根位説

印度学佛教学研究四四—一 平成七年十二月

正量部の修行階梯—見道、修道、無学道—

佛敎大学仏教学会紀要 四 平成八年三月

ラーフラ（羅睺羅）の命名と釈尊の出家

佛敎大学総合研究所紀要 四 平成九年三月

初期仏典にみる煩惱の所在—「覆うもの」と「覆われるもの」—

印度学佛教学研究 四七—一 平成十年十二月

『観無量寿経』の清浄業処について

佛敎大学総合研究所紀要別冊『浄土敎の総合的研究』 平成十一年三月

ゴータマ・ブツダ滅後の敎団とアーナンダ（阿難）

文学部論集八三 平成十一年三月

初期仏典における四無色定の成立

印度哲学仏教学 十四 平成十一年十月

初期仏典にみる煩惱の消滅—煩惱の消滅の三つの形態—

印度学佛教学研究四八—一 平成十一年十二月

チベット訳『有為無為決択』の正量部説と『律二十二明了論』

『加藤純章博士還暦記念論集 アビダルマ仏敎とインド思想』、春秋社 平成十二年十月

ブツダの過去の悪業とその果報に関する伝承

『香川孝雄博士古稀記念論集 佛敎学浄土学研究』、永田文昌堂 平成十三年三月

釈尊出家後の修定伝承の成立について

『石上善應敎授古稀記念論文集 仏敎文化の基調と展開』、山喜房佛書林 平成十三年五月

正量部の成立年代

『櫻部建博士喜寿記念論集 初期仏敎からアビダルマへ』、平楽寺書店 平成十四年五月

The Sāmmañña Doctorines: Kīeśa, Karma, and Āryasatya

『BUDDHIST AND INDIAN STUDIES in Honour of Professor Sodo Mori』 国際仏教徒協会 平成十四年十二月
原始仏教にみられる輪廻思想—ゴータマ・ブッダの輪廻観— 印度哲学仏教学 十九 平成十六年十月

「原始仏教・初期仏教」考

『高橋弘次先生古稀記念論集 浄土学佛教学論叢』二、山喜房佛書林 平成十六年十一月

原始仏教にみる涅槃の語義

『長崎法潤博士古稀記念論集 仏教とジャイナ教』、平楽寺書店 平成十七年十一月

A Study of Primitive Buddhism

Light of Wisdom, Journal of Bukkyo University, Los Angeles Extension, 12 平成十八年八月

初期經典にみられる仏弟子の表現 日本佛教学会年報七八 平成二五年 八月

仏教界の現在と未来—檀家の立場よりみて—

龍谷大学アジア仏教文化研究センター編『日本仏教に未来はあるか』 平成二六年 一月

初期經典に見られる dhamma の訳—「教え」と「真理」をめぐる—

『三友健容博士古稀記念論文集 智慧のともしび アビダルマ佛教の展開』、山喜房佛書林 平成二八年 三月

『スッタニパータ』第五章「パーラーヤナ・ヴァッガ」の研究—第二經〜第七經の試訳—

佛教大学仏教学会紀要 二四 平成三一年 三月